

競技上の注意(個人戦)

審判長:山田 健二

〈ルールについて〉

- 1 現行の日本卓球ルールを適用する。(11点の5ゲームスマッチ)
- 2 タイムアウト制を採用する。ただし、1マッチに1回、1分以内を厳守すること。
- 3 公認のユニフォームの上下を着用し、日本卓球協会ゼッケンを着用する。
- 4 ダブルスは原則ユニフォームを統一する。
- 5 アドバイスルールの変更について

『競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる』 (全国高体連特別ルールから引用)

〈進行について〉

- 1 タイムテーブルをもとに、ベンチコール方式によって進行する。
(あくまでも試合予定時刻の目安である。また、当該コートでの実施とは限らないため、放送に注意。)
- 2 1日目の第1試合の審判は別紙記載の選手が行う。以降は、敗者審判による。
- 3 男子シングルス・ダブルス4回戦以降ならびに女子シングルス・ダブルス3回戦以降の敗者は進行席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 4 1日目は男女ダブルス決勝戦まで及び敗者復活戦と男女シングルス2回戦まで及び女子の敗者復活戦の試合、2日目は残り全ての試合を実施予定とする。

〈県大会出場決定戦について〉

- 1 男子ダブルス (本戦トーナメント3回戦で負けた32組から、24組を選ぶ)
第1ステージ 32→16 (全16試合) 勝者 (16組) は決定、敗者は第2ステージへ
第2ステージ 16→8 (全8試合) 勝者 (8組) は決定、敗退は終了
- 2 男子シングルス (本戦トーナメント3回戦で負けた64人から50人を選ぶ)
第1ステージ 64→32 (全32試合) 勝者 (32人) は決定、敗者は第2ステージへ
第2ステージ 32→16 (全16試合) 勝者 (16人) は決定
※残り2人については、第2ステージの敗者16人のうち最も得失点率が高い2人を選出
- 3 女子ダブルス (本戦トーナメント2回戦で負けた24組から4組を選ぶ)
トーナメントを4つのブロックに分けて4組を選びます。
第1ステージ 外・内シードから遠いペアどうしで第1ステージ
第2ステージ 第1ステージ勝者ともう一つのペアで第2ステージ
第3ステージ 第2ステージの勝者どうしで第3ステージ
- 4 女子シングルス (本戦トーナメント2回戦で負けた48人から8人を選ぶ)
トーナメントを8つのブロックに分けて8人を選びます。
女子ダブルスと同様のやり方で第3ステージまでを実施
それぞれのブロックで勝ち上がった8人が選出
- 5 11点の3ゲームスマッチ (2ゲーム先取) とする。
- 6 対象者は、本部にて本戦の結果処理および敗者審判後、決定戦本部席で参加確認を行う。
- 7 決定戦により、県大会出場の権利を得た場合、決定戦本部席にて順次、県大会出場登録を行う。
- 8 決定戦初戦の審判は本戦の敗者が行い、以降は試合のない決定戦勝者・敗者で指名する。